

OPINION

中部経済新聞

大きな変革期を迎えている世界では、その変化がビジネスリーダーや政策立案者だけでなく、わたしたちの個人生活にも、行動、分析、診断、意思決定に影響を与えている。ブラジルに進出する日本企業はブラジル情勢をどう判断

ナビゲーター

し、米国や南米の政策がどのように影響するのか、という視点から記述するが、まず以下の見解は私個人のものであることをお断りする。実証されたものではなく個人的な見方に基づき、文面はチャットGPT4・0を使用し整えられている。

日本への期待
世界各地から

118

世界情勢変化と南米の位置づけ

今日における変化の最も根本的な原動力の一つは、テクノロジーの進歩によって可能になった分散化、つまり情報アクセスとコミュニケーションの分散化である。にもかかわらず個人や組織はその行動、分析の枠組み、意思決定プロセスの適応に苦慮し続けている。

第二次世界大戦後の数十年間、大半の国は自国の最大利益になると考え、福祉国家を受け入れてきた。その結果、富の創造より富の分配を優先する官僚的な政治が拡大し

南米ブラジルから(上)

た。社会保障や国が実施する給付と引き換えに、人々は個人の自由を犠牲にした。

しかし、やがてこのモデルは経済停滞を招き、ときに社会の貧困化を招いた。この変化を自発的に受け入れた人もいれば、従わざるをえなかった人も多い。この短い記事で、この問題の複雑さを完全に解明することはできないが、今日の政治的かつ経済的シフトの重要な背景であることに変わりはない。

世界史上における南米のユニークな位置づけとして、他

の地域とは異なりアメリカ大陸はおよそ500年前まで、世界的な経済発展の影響をほとんど受けずにいた。イギリス、スペイン、ポルトガルを中心とする米大陸の初期の入植者たちは、自由と自治に対する強い恩恵の念を共有していた。この精神は、多くの南米諸国がヨーロッパの支配からの解放を求めた19世紀の独立運動にも表れている。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、移民の波がイタリヤ、日本、ユダヤ、ロシアから押し寄せ、多くは貧困から

逃れてきた。当時ヨーロッパで流行りつつあった社会主義思想も持ち込まれた。その結果、南米ではポピュリズム、社会主義、権威主義体制が試行されるようになり、長期的な経済発展の妨げとなった。免れたのは、アメリカ合衆国と20世紀初頭までのアルゼンチンだけであった。

分散化された情報の流れは、アメリカ大陸に肥沃な土壌を見出し、この地域の自治の歴史的探求と共鳴してきた。しかし政治や経済構造を長年にわたり支配してきた政治的エリートたちは、変化への抵抗を続けている。にもかかわらず今後5年から10年の間に、政治的かつ経済的に大

きな変化が起こる予兆が示されつつある。

米国ではドナルド・トランプが大統領に就任し、エルサルバドルではナジブ・ブケレ、アルゼンチンではハビエル・ミレイがリーダーシップを発揮し、新たな政治的先例となった。彼らの統治スタイルとその政策は、ウルグアイ、チリ、ペルー、さらにはコロンビアやカナダといった他の国々によって注意深く観察され、場合によっては模倣されている。

【クリスチャン・ミゲンス、
リム中産連】

(月曜日に掲載)